酒々井町
郷土研究会々報
第57号
平成2年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

下岩橋城主考

加川治良

最近は、本佐倉城が、酒々井町の貴重な文化財として取り上げられるようになりましたが、本佐倉城史の史的な研究は始まったばかりのようです。城史の史料収集・研究に注目していきたいと思います。さらに、本佐倉城とそれを取り巻く支城の研究・調査もこれからの課題です。

下岩橋城跡は『酒々井町史』に詳しく紹介されていますので重複は避けますが、本佐倉城と同じように貴重な文化財で、その遺構が殆んど破壊されずに残っています。

千葉氏十九代の輔胤は、本佐倉城主になる以前を岩橋殿と称したと『千葉大系図』にあることから、この下岩橋城の城主であったと推定されます。輔胤が本佐倉城に移った後の城主については、輔胤三男の成身院が岩橋殿と「大系図」にあり、此の成身院は「源意・菊間坊成身院也」と記載されていて、輔胤以後を下岩橋に住み、菊間神社の神主を勤めていたようです（「千学集」）。

千葉勝胤（二十五代）の五男の公弁、六男常覚は、ともに岩橋殿と称したと「妙見実録」に記載されています。公弁に就いては史料は未見ですが、六男常覚は、千葉氏の信仰の基である妙見宮・金剛授寺の十三世とあります。此の金剛授寺主は千葉氏の直系が継ぐ事が伝承され、十四世は昌胤の子覚胤、十五世は、胤富の養子覚全がなっています。当時は一族の中の子が神仏に入り、一族の守護を願うのが通例でした。

下岩橋城主も輔胤以後も続き、直系以外の一族が居住していたと思われます。なおこれらの記録されている「千学集」「妙見実録」は、千葉氏研究の基本史料として使われています。

下岩橋城跡
（大仏頂寺山門入口より撮影）

城跡の下、木戸坂を越える山林のなかに、前方後円墳と推定される古墳があります。残念ながら採土で全貌は分かりませんが、現在は墳丘と思われる一部と井戸？が残っています。井戸は近年の物と思われますが、墳丘部？に石碑があります。山主の高橋小十郎（故人）さんが建てたもので、碑文が書かれていて、表面に「墳墓」、裏面に「有石構造」と彫られています。

この石構造は石槨と思われます。石碑の前にボーリング棒を入れてみました。深さ七十センチ位の所に、石棺の蓋とも考えられる手答えがありました。先人が建ててくれた石碑のおかげで、平地で貴重な考古学の遺産が確認できました。

文化財保護、これはお祭りや行事で終わりではなく、長くしんどい仕事のようです。下岩橋城跡も、いつまで貴重な史跡として残るか疑問のようです。落城？寸前のようです。

『山菜を食べる会』奮戦記

今年は思い切った暖冬に、四月に入ってからの雨続き。タケノコ梅雨などと聞いたことのない言葉も登場するほどの天候異変。そんな時、今年はタケノコ不作のニュースが流れ、ああ、どうしよう、果して四月二十六日の「山菜を食べる会」に九〇人分の山菜が集まるかどうか、献立委員一同やきもきの日々が続きました。一週間前に献立をたてる時になっても、はっきりした状況がつかめなかったのは初めてのことです。しかし下岩橋の高橋さんの「郷土研のタケノコは絶対間に合わせます。タラの芽も何とかします。」との心強い言葉に一同安堵のタメ息をつきました。

二日前には芝山にワラビ、八街にコゴミ採り。前日午前中には流通センターとタイヨーに買い出し、昼からは七キロの豚の角煮づくり、どっさり届いたタケノコ巾でピフル回転の日々が続いての当日、朝八時半の調理室にはお手伝いの人達も多数集って下さって盛り沢山のメニューもつぎつぎ出来上りました。何しろ九〇人分ですから、天ぷらを揚げた人は油酔いして気持が悪くなったなんて気の毒なことも起りました。

広い講堂一ぱいのお客様。あちらこちらで「おいしいわね！」「これはどうやって作るのかしら」。「これはこうして」などとワキ合い〳〵。青木朝次さんと古川さんが用意して下さったダリア、ナデシコなどの草花をお土産に皆さん満足して帰られたと確信しています。かくして後片づけの済んでガランとした調理室には気の抜けた献立委員の姿がありました。

町内史跡めぐり報告

前日に梅雨入り宣言、あきらめていたのに六月十日はまるで神様の恩召しのような照らず降らずのハイキング日和。佐倉、成田からの人達も見えて総勢二十六名、公民館を出発しました。

青木喜作さんの説明も楽しく、東光寺―下台麻賀多神社―あじさいの盛りの経胤寺を経て清光寺です。ここでは日頃お目にかかれない県指定文化財の阿弥陀三尊に拝観がかないました。写真で想像していたよりも小柄でしたが、ふっくらとしたお顔と小さめの御手足が可愛らしく、なんだか親しみさえ感じられました。境内にある家康の父、広忠の歯骨墓は、徳川家や佐倉藩によって手厚く守られてきたのですが、今は石垣も山崩れ、栄枯盛衰の趣です。しかし家康のお手植えから何代目かの厚朴(ほう)の木の花が咲き、侘びしさの中にも色を添えていました。

お弁当の後は根古谷の吉祥寺へ。ここでは町指定の十一面観音を拝観。最近、光背と台座が修復されて見違えるほど立派になられた観音様は、慈悲深い御様子でした。本堂の欄間に懸けられた百数十枚の絵馬は、大正、昭和の初め頃、境内の乳の井のお水を載くと乳の出がよくなるという信仰のもとにあげられたもので、昔の人達の信仰の純粋さに心打たれました。

根古屋青年館の前には地元の石渡一郎さん所精の菖蒲が色とりどりに咲き乱れ、ここで一息ついて記念のハイポーズ。双体道祖神にごあいさつし、本佐倉城跡の山裾をたどって上岩橋貝層から勝蔵院にて解散。酒々井町の文化財と緑豊かな自然に堪能した一日でした。

郷土研日誌　H2.4月～6月

月日	内容	参加人数
4.14	史談会「古今佐倉真佐子」を読む会	12名
15	史跡文化財愛護活動	24〃
18	県外見学会（埼玉県吉見町・小川町方面）	55〃
20	山菜献立委員会	8〃
24	山菜とり	6〃
25	山菜を食べる会下ごしらえ	9〃
26	山菜を食べる会	84〃
5.9	名勝探訪「佐倉道を歩く」(20)	33〃
12	史談会「古今佐倉真佐子」を読む会	13〃
16	NHKビデオ「昭和の歴史」を見る集い	13〃
29	見学委員会	9〃
6.9	史談会「古今佐倉真佐子」を読む会	13〃
10	町内史跡めぐり（教育委員会共催）	26〃
13	名勝探訪「佐倉道を歩く」(21)	(雨天中止)
16	運営委員会	18〃
	会報発送	15〃

会計報告

◎県外見学 5/18 吉見・小川町方面

参加者数 55名

収入 5,000×55 = 275,000

支出 273,218

内訳
- バス代 103,000
- 高速代 12,900
- ドライバーチップ 8,000
- 昼食料 96,305
- 入場料 22,600
- 諸雑費 14,513
- 払戻金 16,500

残金 1,782円 郷土研へ繰入れ

◎山菜を食べる会

会費納入数 74名
招待数 10名

収入 500×74 = 37,000

支出 材料費総額 37,526

不足分526円を郷土研より補足

県外見学会紀行

玉井　旭

東北自動車道加須インターから一般道へ下りて鴻巣を通って一時間ばかり走ると吉見町の安楽寺に到着した。バスはどうしたわけか表参道に着かないで脇参道で降ろされた。

境内に入ると生きいきした若葉の中に真新しい立派な客殿があり、その向こうに本堂が岸壁のように聳え立っていた。表参道の方から廻わると四、五十段の石段を上り切ったところに仁王門があり、これを潜り抜けると前庭に出る。割合いに古杉大木は少なく明るい感じの境内である。

さらに石段を上ると目の前に本堂が迫っている。天狗鼻のように突き出した朱塗りの向拝と高欄の付いた本堂は、目見当で八間四方くらいはある。ありとあらゆるところに千社札が貼られていて信者の多いことがうかがわれる。左甚五郎が彫ったという欄間の虎はどこへ遊びに行ったやら、いくら探しても見当らなかった。

本堂の右手には三重の塔が老杉の間にある。朱に塗られた塔身は優雅で美しいが、その朱色も相当に禿げ落ちて華麗さはなく、その分おっとりした重厚さが滲み出ていた。

ふと廻りを見ると既に皆はいない。急いで戻ろうとすると本堂の前に涎掛けをたくさんかけた可愛らしい六地蔵をみかけたので自分も小さくしゃがんで別れをつげた。参道の遥か向こうのバスにはすでに皆が乗り込んで、早くこいとさかんに手を振っているのが見える。急いで乗車した。

ら世話好きで世話焼きの彼女が厄除け団子を一つずつ配ってくれた（一串ずつではない）。醤油かげんの濃い、弾力のある団子は、辛塩で育った自分には懐かしい味であった。

次の見学地吉見百穴は蜂の巣にたとえるにはややまばらだが、一定の配置を保って黒い口が並んでいる。先住民族の住居跡と言われていたが、実は墓穴であるとか。凝灰岩の白い岩肌には草一本生えていない。ただ、ところどころ、岩の割れ目から芽生えた灌木が生きるエネルギーを発揮して、元気よく若芽をふいていた。五、六ケ所の百穴の中に幻想的な緑光を放つ「ヒカリゴケ」が自生していたのが美しい。

次に向かった小川町には日本五大名飯の一つ『忠七めし』を出す「二葉本店」がある。この忠七めし、名飯といってもお茶漬けであるが、さっぱりとした薄塩の海苔味が舌にとろけてうまい。もともと自分はお茶漬けが好きで、宴会の後、帰宅した時は夜遅くともご飯にのり玉茶漬けやわさび茶漬けなど、あり合せに熱く濃いお茶をたっぷりかけてさらさらと流しこむのが常であるので尚更であった。

十分な腹ごしらえが出来て、和紙センターを見学し、時間の申とりがあったので東松山市の「丸木美術館」によって原爆被災の生々しい凄惨な地獄絵を見て帰途についた。

泉をかこんで一休み
くんでもつきない泉のように
よもやまばなしがつづきます。
どうぞあなたもお仲間に

お知らせ

生きがいの創造
人あり…ここに生きる

郷土研究会の活動が再びテレビ放映されます。（千葉テレビ放送、UHF）

『ふるさとを知ろう』―郷土研究会―

◎七月三十日（月）
午後九時二十分～九時四十分迄

◎八月五日（日）
午前十時二十分～十時四十分迄

会費納入について

平成二年度も下半期に入って参りました。日頃よりご協力いただき感謝申し上げます。

さて、本年度会費千円（期間一月一日～十二月三十一日）未納の方は、最寄りの役員か会長に納入下さいますようお願い申し上げます。又、脱会されたい方、新入会されたい方、左の会長宅までご連絡下さいますようお願い申し上げます

会長
会田番雄宅

第57号(No.4)　酒々井町郷土研究会々報　平成2年7月1日(日)

郷土研行事案内

平成2年7月～9月

	7月	8月	9月
史談会	14日(土)　午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館	休み	22日(土)　午後1時　現地学習 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館(雨天中止・室内)
名勝探訪 野草の会	9日(月)　京成酒々井 午前9:09出発 名勝探訪　佐倉道を歩く(21) 京成酒々井駅―臼井駅―成田道標―光勝寺―一里塚跡―江原刑場跡―江原新田―印南小学校跡―角来八幡神社―馬頭観音―鹿島橋で砂払い 前回の資料をご持参下さい　(雨天中止)	休み	18日(火)　京成酒々井 午前8:22出発 名勝探訪　六義園 京成酒々井駅―駒込―六義園―小石川養生所跡―富士浅間神社―名主屋敷―吉祥寺―養昌寺―目赤不動―天栄寺―高林寺―辻のやっちゃ場―白山神社―円乗寺―地下鉄白山駅―京成酒々井 (雨天中止)
史跡文化財愛護活動	7月22日(日)　午前8時　現地集合 ◎ カマ・クマデ等ご持参下さい。 ◎ 2ケ所とも午前8時作業を始めます。 ◎ 都合のよい現場にご協力下さいますようお願いします。(雨天中止)代替日 7月29日(日) 第1現場―上岩橋貝層・カンカンムロ横穴群 第2現場―伊藤松並木　草刈・清掃		
県内見学会	7月16日(月)　A班 17日(火)　B班 出発時間　中央公民館 午前8時30分 旭市・光町方面 酒々井中央公民館―旭市・木曽義昌墓,東漸寺―銚子市・猿田神社―飯岡観光センター(昼食)―光町・成田不動上陸地―蓮沼公園―山武町・妙宣寺―酒々井 申込受付日・場所―7月6日(金)9時　中央公民館ロビー(定員になり次第〆切ます。) 会費―1,700円　定員各班32名(補助席無)　キャンセル―実施日5日前までに 金田秀雄宅までご連絡下さい		
NHKビデオ「昭和の歴史」を見る集い(No.2)	8月21日(火)　午後1時30分　中央公民館 視聴覚室 (No.2)「昭和の歴史」　NHKビデオを約2時間観賞します。(休憩時間10分含みます)		

県内見学会　7/16(月) 7/17(火)

見学会案内

誰でも知っている水曽義仲(朝日将軍と言う)、その十九代の末裔の水曽義昌が徳川家康に一万石の大名に取り立てられて旭市に居たと言う。

その城跡は、今、東漸寺という寺になっている。又、死んだ時は槽の海(今は干潟八万石という水田)に水葬されたと言う所に碑が建っている。

この両方を見学して銚子の猿田神社を訪ねる。猿田彦の神は天狗になったり、庚申様になったり面白い神様なので、そんなことを思い出したりして、海岸の飯岡観光センターで、新鮮でおいしいお魚の昼食です。

午後は光町の成田の不動様が舟で来て上陸したという所、蓮沼公園の展望台からアメリカの方を見て山武町の鍋冠り日親の妙宣寺を見学して五時前には帰りたいと思います。

名勝探訪　7月9日(火)　7/10(火)　9月18(火)

◎ 佐倉道を歩く(21)

六月十三日に実施予定のところ生憎の雨天模様のため延期となりました最終回の臼井、江原、鹿島橋コースは別記の通りで説明を省略しますが、五月九日の臼井地区見学と合わせて、臼井八景の撰文の鑑賞を兼ねて実施し、鹿島橋着と同時に終了式(砂払い?)を行いたいと思いますので、多数のご参加をお願いします。

◎ 六義園　九月18日(火)

酒々井から京成線で日暮里へ、それから山の手線で駒込で下車、六義園へ。昔は憎まれ大名柳沢吉保の下屋敷跡です。賄賂で造った庭園の善美を鑑賞して下さい。テレビの時代劇によく出る小石川養生所の跡もあります。

本郷通りを南下して富士浅間神社、名主屋敷、吉祥寺、養昌寺、目赤不動、天栄寺、高林寺、辻のやっちゃ場、そして白山通り白山神社、円乗寺や有名人の墓など、地下鉄白山駅から水道橋駅、秋葉原、上野駅と、そして酒々井に帰ります。

編集後記

青葉若葉の緑の色もますます濃くなって紫陽花が雨にひかっています。いつもいろいろの行事に多数のご参加をいただき誠に同嬉しい悲鳴をあげています。今回も県内見学会をはじめ、新しく都内の名勝を訪ねることにしましたので奮って御参加下さい。又行って見たいところなど御希望をお寄せください。

間もなく梅雨もあがってまぶしい太陽の照りつける季節が訪れますが、お体には十分にお気をつけてくださいませ。